



**TRAVIS INDUSTRIES
HOUSE OF FIRE**

Leyden

ライデン 取扱い説明書



Tested to: U.L. 1482

Test Report # 028-S-75-2

© Copyright 2010, T.I.

はじめに

Leydenをご購入頂きありがとうございます。

薪ストーブは、火のおこし方・薪の種類などご自身のスタイルを見つけていくのも楽しみのひとつです。より長く楽しい薪ストーブライフを送るため、この説明書をよく読み、適切にご使用ください。

この説明書には、操作・メンテナンス・保証など、今後ご使用いただくために必要なことが記載されていますので、なくさないよう大切に保管してください。

目次

1. <はじめに>	16. <トラブルシューティング>
はじめに	困ったときは
目次	
2. <安全のための注意事項>	17. <メンテナンス>
3. <安全のための注意事項>	日頃のメンテナンス
4. <概要&スペック>	18. 煙道内火災について
概要	シーズン後のメンテナンス
スペック	ガasketの交換
付属品リスト	19. 灰受け皿ラッチの調整
5. <離隔距離>	燃焼ボックス周辺の掃除
6. <オプション>	アンダイアの取り外し
外気導入キット	20. ダンパーハンドルの取り付け・取り外し
7. <操作>	フルカラーの取り外し
安全のために	煙突後ろ出し
最初の火入れの前に	21. <部品図>
8. ドアの開閉	フロントドア
ダンパー操作	ドアガasketの交換
9. 着火	トップローディングガasketの交換
10. 薪の追加	ドアハンドルの交換
11. 火力の調整	22. 燃焼室
12. 灰の処理	レンガの取り外しと交換
灰受け皿の取り出し方	燃焼ボックスの取り外しと交換
13. 夜間就寝時の燃焼	23. <保証について>
音について	1年間の保証対象
上手に焚くためのコツ	2年間の保証対象
14. 火入れのコツ	保証条件、及び対象外の定義
15. <薪について>	
薪の選び方	
なぜ乾燥した薪が必要なのか	
クレオソートとは	
薪の保管	



運転中は、フロントドアはラッチによりしっかり閉じられていなければなりません。ドアが開いていると煙が漏れてくる可能性があります。



着火時など、ガソリンやほかの発火性液体燃料は使用しないでください。またストーブの近くで発火性液体燃料を使用あるいは保管しないでください。



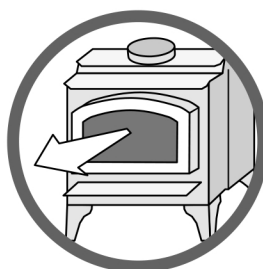
この機器は薪を使用するように作られています。機能の維持、安全性、保証の有効性のためにも薪以外の燃料を使用しないでください。



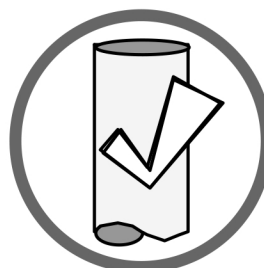
灰はしっかり蓋の閉まる金属製の容器に移し、表面が不燃性の床の上で保管してください。



運転中は直接本体に触れようご注意ください。お子様には、本体が熱い状態にあることをしっかり伝えてください。



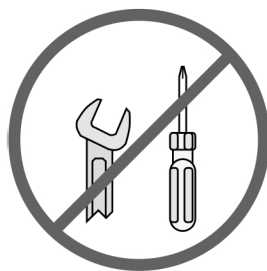
家具・カーテン・木・紙・その他可燃性のものは、ストーブ前面から900mm以上の離隔が必要です。



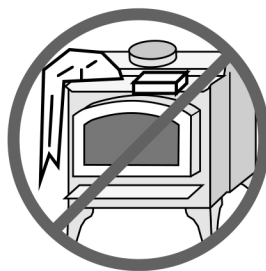
煙突は、必要があればその都度点検し清掃してください。クレオソートの付着、堆積は煙道内火災の原因になります。この機器の煙突を他のストーブに接続しないでください。



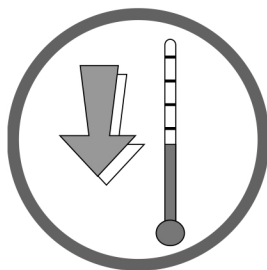
取り付け、設置に関し地域の規制がある場合は事前に確認を取って、規制に従ってください。



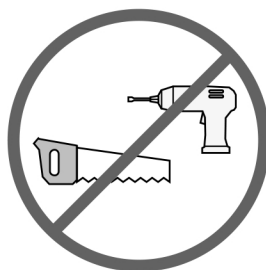
この説明書に指示されない修理や交換作業を行わないで下さい。
専門的な作業は販売店にご相談ください。



服や布など可燃性のものをストーブの上や近くに置かないでください。



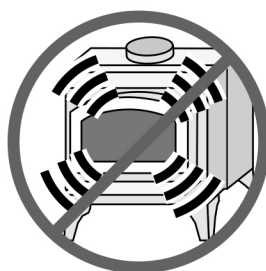
メンテナンス、クリーニングなどの作業は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。



ストーブや煙突を改造しないでください。



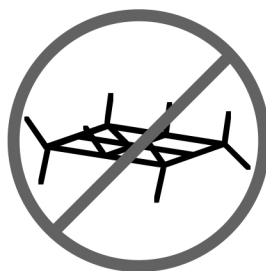
ストーブの密閉度を保つために、ドアやガラスのガスケットの状態を確認してください。



ストーブ本体や煙突が赤くなるほど熱くしないでください。「過燃焼」状態となり、非常に危険です。



操作やメンテナンス・保証にかかる重要な事柄が書かれていますので、当説明書は捨てずに保管してください。後に必要になる場合があります。



薪は常に火室内の床の上で焚いてください。グレートやクッキングスタンドの上に薪を載せて焚かないでください。

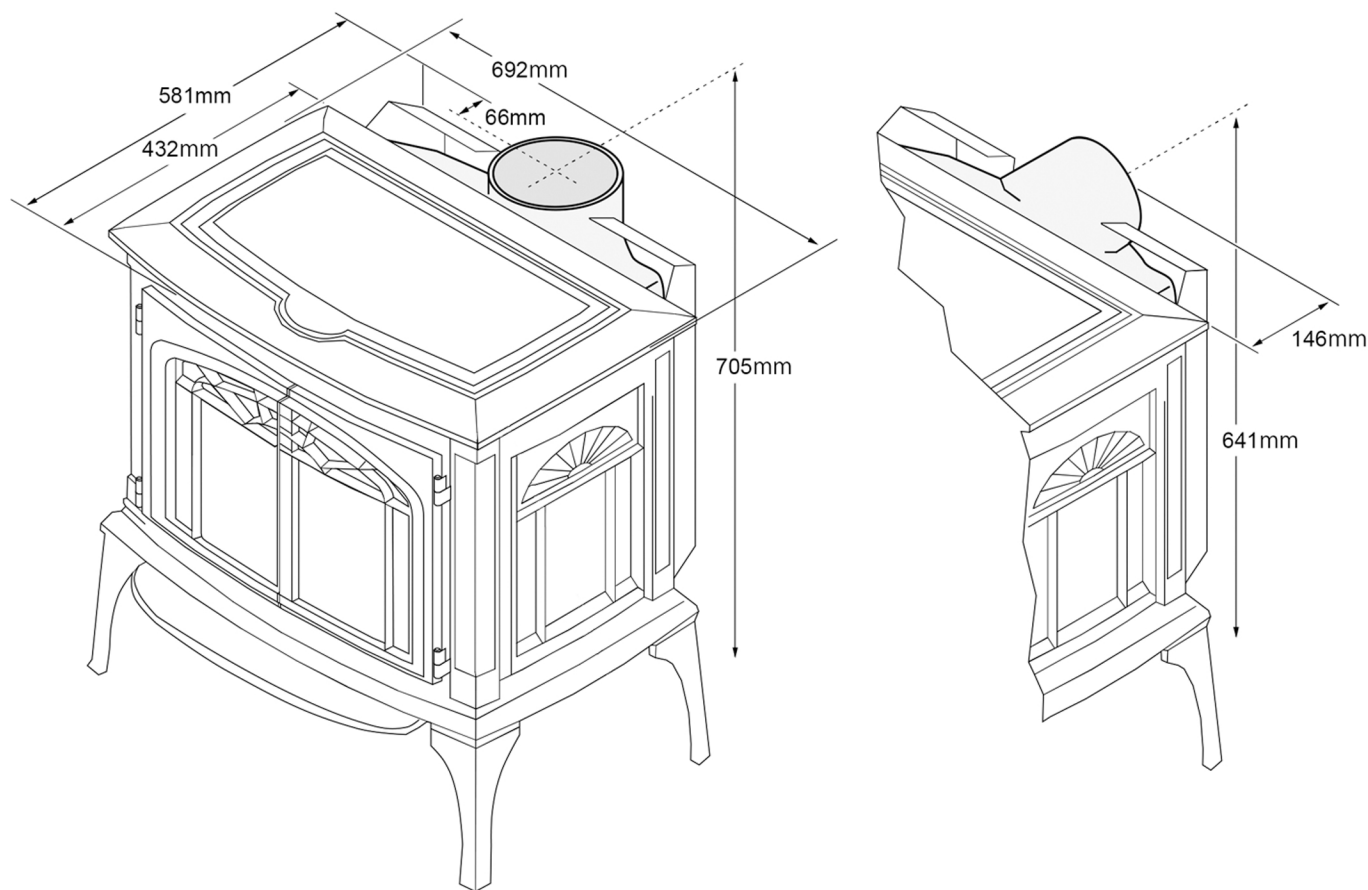
概要

- ・EPA(アメリカ環境保護庁)フェーズII認証
- ・レバー 1 か所によるイージーエアコントロール
- ・投入可能最大薪長さ 530mm
- ・鋳鉄製構造
- ・高密度・軽量・耐久性の高い耐火レンガを使用

燃焼スペック

最大暖房面積	185㎡
最大出力	18,400 kcal/h
最大燃焼時間	12時間
重量	228kg
排気煙量	2.4g/h

※上記数字は、家の構造・環境・煙突の設置状況・薪の種類や乾燥具合によって変わります。



付属品リスト

- | | |
|-----------------|-----------|
| ・ポーカー（火かき棒） × 1 | ・グローブ × 1 |
| ・ファイヤースターター × 1 | |

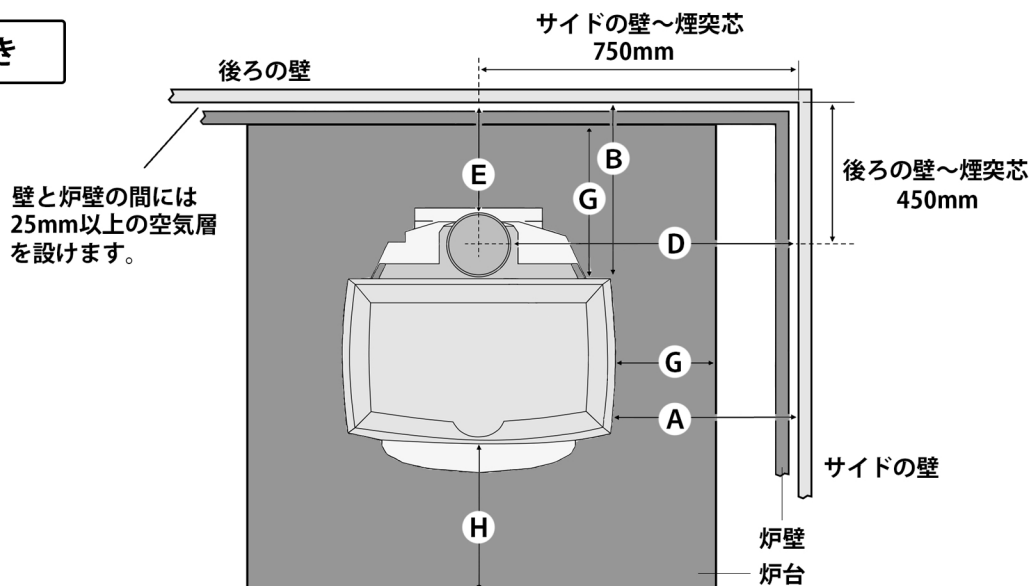
離隔距離

炉台・炉壁は、不燃材かつ厚み 0.5mm 以上のものを使用してください。

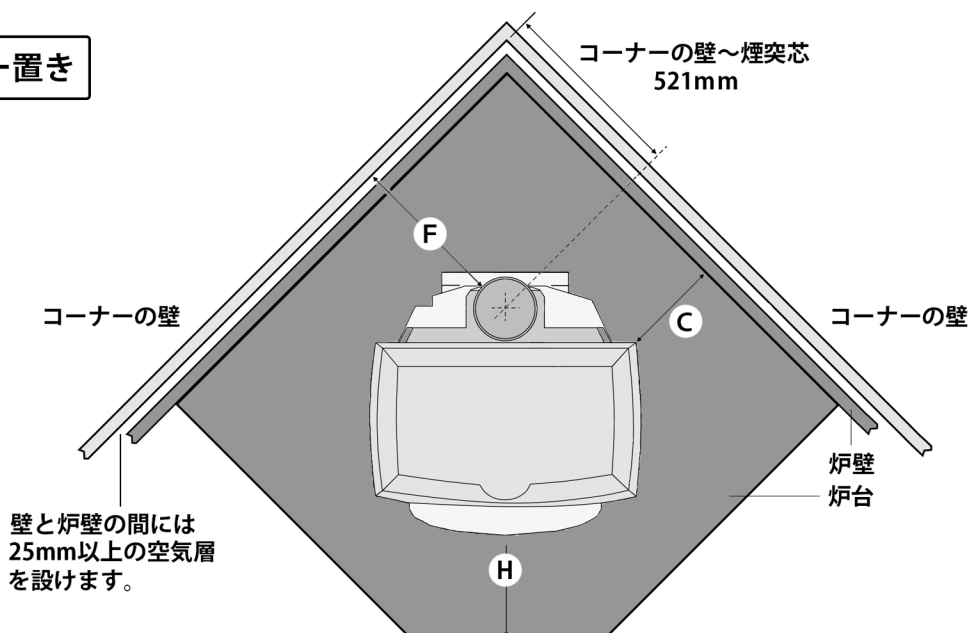
熱伝導による炭化防止のため、壁と炉壁の間には、25mm以上の空気層を設けるものとします。

A 壁とストーブ（サイド）の距離	460mm	※後方・サイドは壁に一番近い部分からの距離となります。
B 壁とストーブ（後方）の距離	530mm	※前方はフロントドアからの距離となります。
C 壁とストーブ（コーナー）の距離	320mm	※コーナーは壁に一番近い部分からの距離となります。
D 壁と煙突表面の距離（サイド）	730mm	※ストーブ前方～可燃物の離隔は900mmです。
E 壁と煙突表面の距離（後方）	375mm	※炉壁を設置しない場合の離隔は壁から700mm以上です。
F 壁と煙突表面の距離（コーナー）	425mm	
G 炉台とストーブの距離（サイド・後方）	150mm	
H 炉台とストーブの距離（前方）	400mm	

平行置き

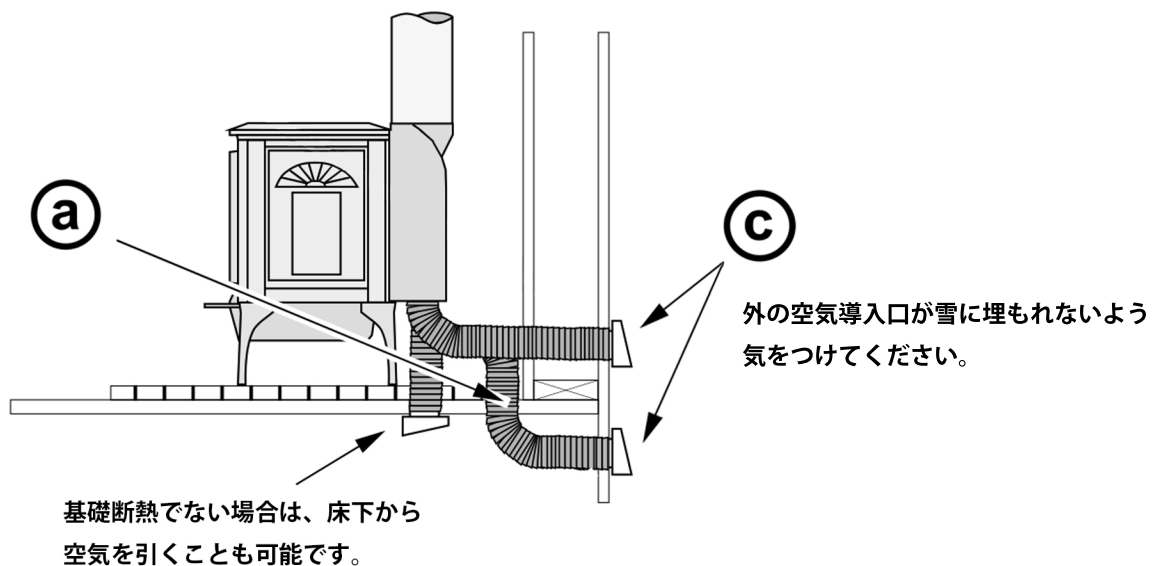


コーナー置き

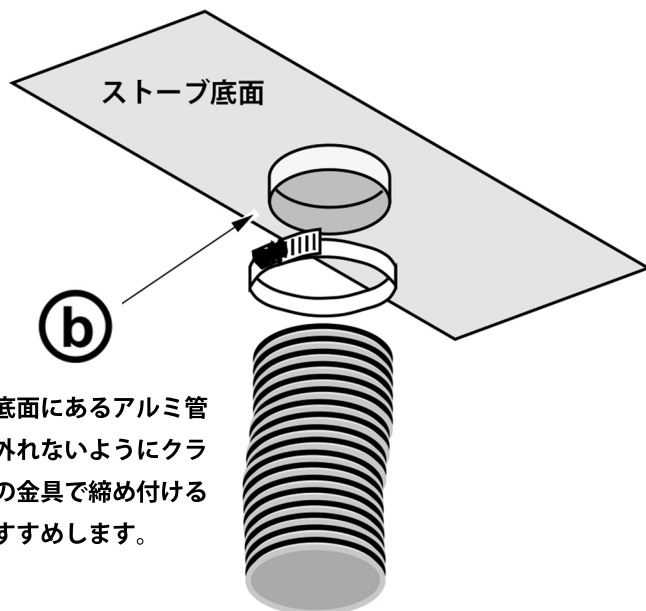
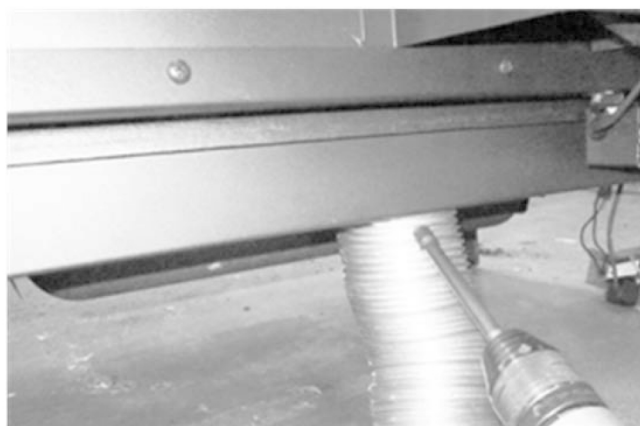


外気導入キット

- ・外気用ジャバラ管は基礎断熱、ガレージなど、密閉された空間から引いてくることはできません。
 - ・ストーブ後方下部より75mm径のジャバラ管を使用してください。(a・b参照)
 - ・外壁用ダクト(キャップ)は防塵用の網、雨水侵入防止用の被いのあるものを使用してください。(c参照)
- ※トラビスの外気導入キット(99200139)は設置に伴う上記全ての部品が含まれています。



(b)



安全のために



ストーブは適切に操作しないと火災を引き起こす可能性があります。当説明書をよく読み、操作上の注意・指示に従ってください。



灰受け扉を開けたまま使用しないでください。過燃焼の原因となり危険です。

最初の火入れの前に



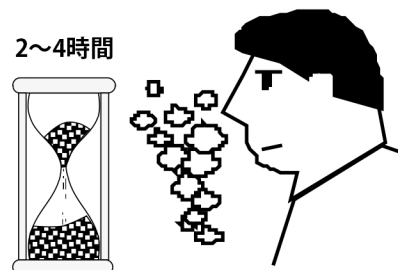
ストーブの前方 900mm 以内に、家具・布類ほか可燃物を置かないでください。

最初の火入れの際、ペイントが焼けて匂いを発します。この匂いは通常 2～4 時間で消えます。害はありませんが、この間は窓などを開け、換気をしてください。

またストーブ内部の錆止めオイルが焼ける匂いもありますが、これもすぐに消えます。

上記のペイント焼けの際に、フロント部のペイント塗料がドアガスケットと固着する現象が起こることがあります。フロントドアを若干開いて焚くようにしてください。

2～4時間



基本的にこのストーブは高温に耐えられるよう作られています。煙突の組み方・燃料・ドラフト（上昇気流）などの要因により、限界以上の高温にさらされる可能性があります。トップやほかの部分が赤くなるようであれば、過燃焼の状態です。エアーをしぼって燃料の投入を控え、ストーブの温度が下がるのを待ってください。

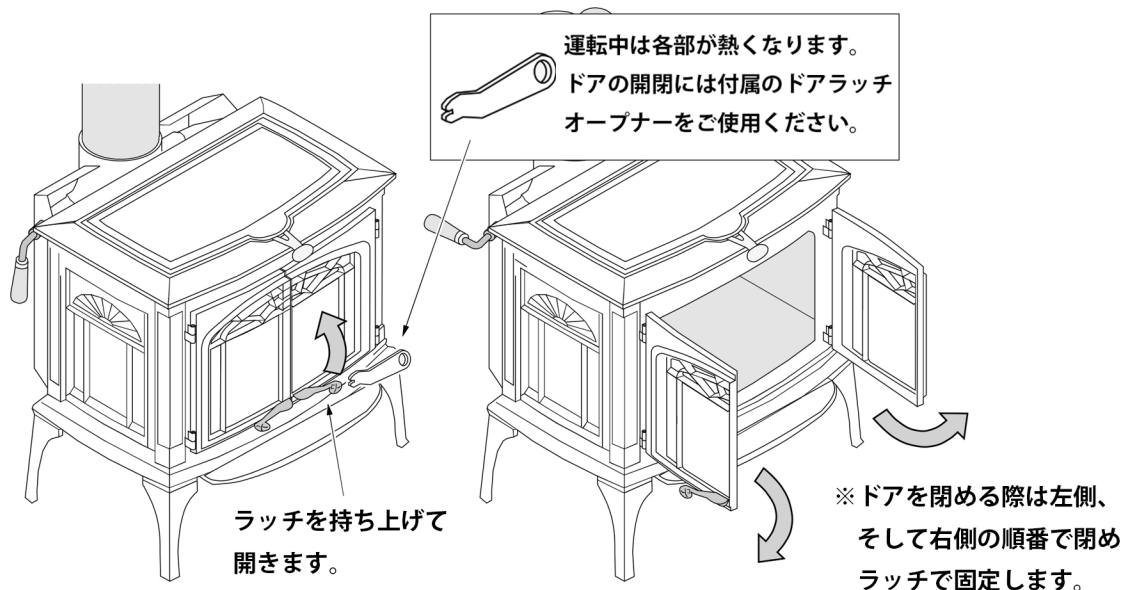


過燃焼はストーブにダメージを与えますので、ストーブトップに温度計を設置することをお勧めします。通常は温度計が 200～250℃ となるようご使用ください。

過燃焼による部品の損傷が保証対象外となりますのでご注意ください。



ドアの開閉



ドアは90度以上開かないよう注意してください。開きすぎると損傷の原因となることがあります。



ストーブ使用中はドアが熱くなります。ハンドルを操作する際はグローブをご使用ください。



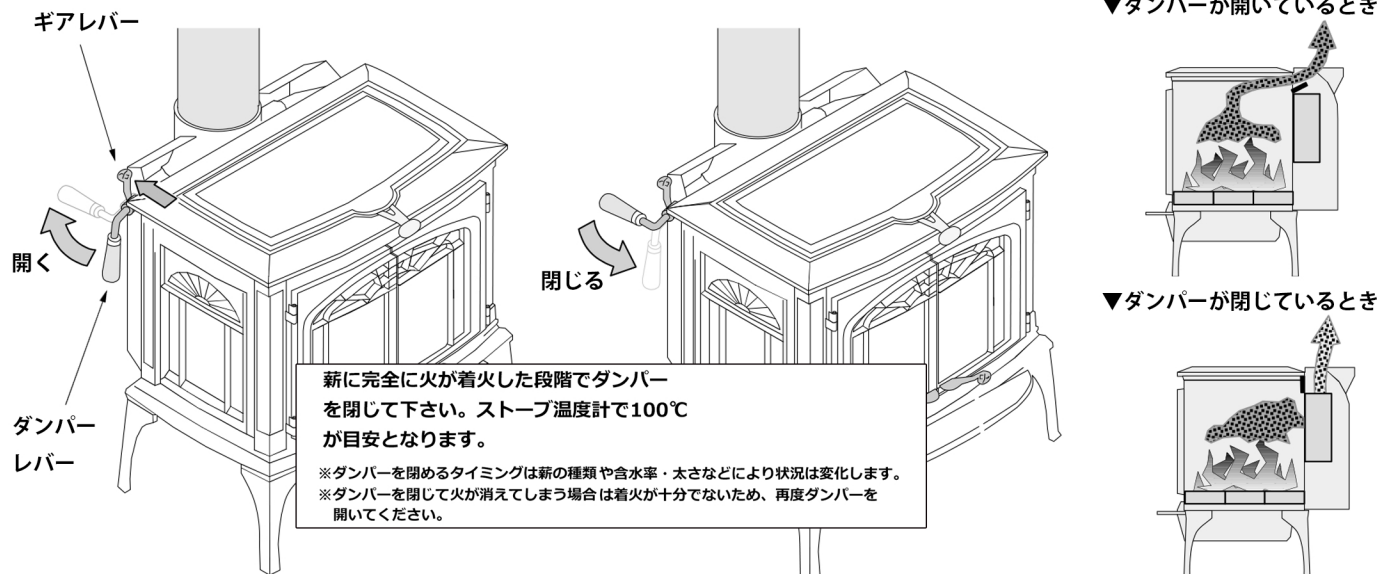
ドアを開けたまま使用しないでください。



煙の逆流防止のため、ドアを開く前にダンパーを開けてください。ドアを開ける際は、火室内の圧力を逃がすために一瞬間間ができる程度に開け、室内と火室内の圧力を同等にします。それから大きく開けてください。

ダンパーの操作

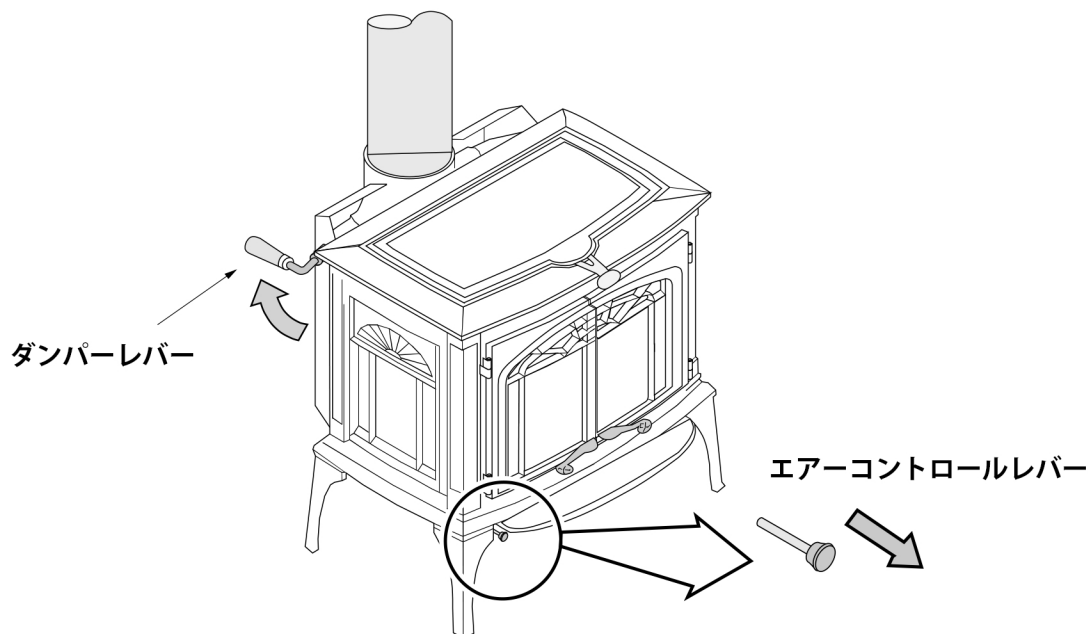
ダンパーは火室内の煙の流れをコントロールします。ギアレバーを後方に倒すとロックが外れてダンパーが開き、煙は直接煙突に向かって上昇するのでより強いドラフトを得ることができます。火入れ・薪の追加投入時にダンパーを開きます。ダンパーレバーを下げるとダンパーが閉じ、ギアレバーによってダンパーレバーがロックされます。煙は燃焼ボックスを通して二次燃焼を起こし、より効率の良い燃焼へと移行します。通常燃焼時はダンパーを閉じた状態にします。
※ダンパーは全開もしくは全閉でのみ使用してください。開閉を途中で止めてしまうと密閉度が下がり、ストーブにダメージを与えることがあります。



着火

- ・ エアークントロールレバーが最大限開いている（手前に引かれている）ことを確認してください。
- ・ ダンパーレバーを持ち上げて、ダンパーを開けてください。

※外気温・気圧の影響により、煙突内のドラフトが弱い場合があります。もっと空気が必要だと感じた場合は、着火後5分ほどフロントドアを数ミリ開けて焚いてください。



新聞紙や薪以外の燃料を使用しないでください。触媒に損傷を与える可能性があります。



ガソリン・オイル・石油など、液体燃料は絶対に使用しないでください。また、これらをストーブの近くで使用・保管しないでください。



ファイヤースターター（着火材）は、専用のものをご使用ください。



運転中は本体が熱くなりますのでお子様の行動に注意してください。接触はやけどの可能性あります。



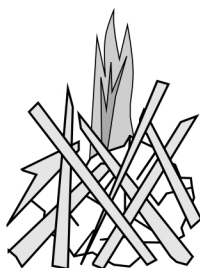
運転中は灰受けドアを開けないでください。過燃焼の原因になります。



もし煙がうまく煙突に流れていかない場合は、新聞紙を丸め、火室の中央で燃やしてください。煙突が温まることによりドラフト（上昇気流）が発生します。

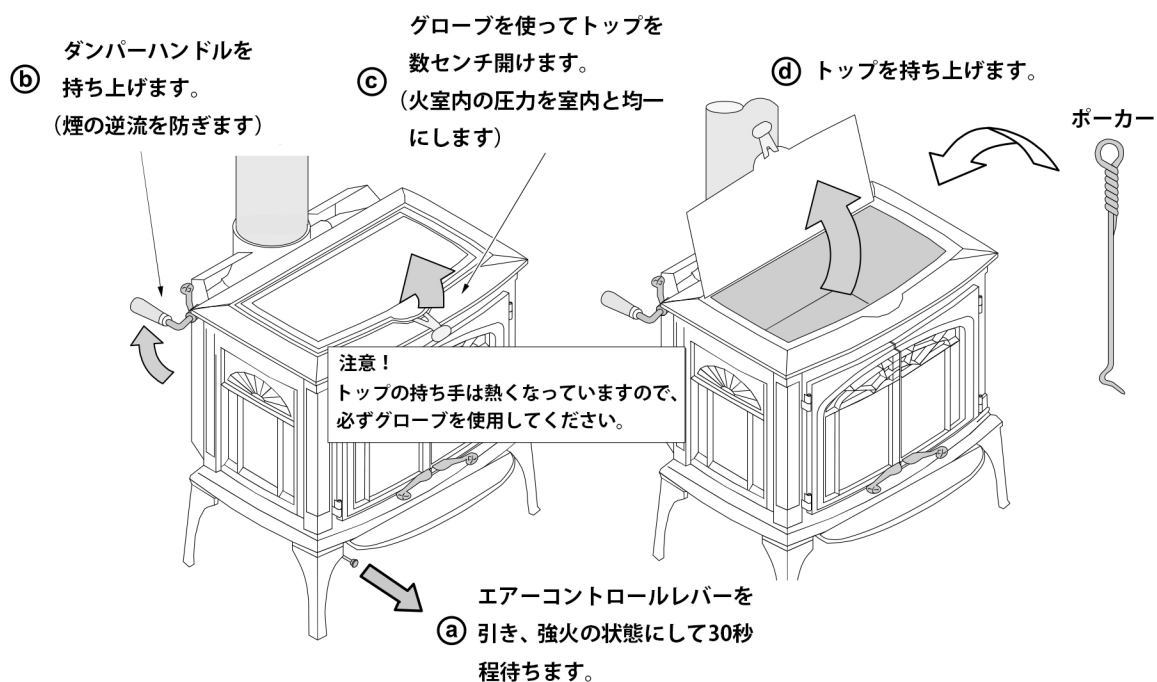


火入れの際は、十分な量の焚き付け（細く割った薪）を使ってください。焚き付けに火がまわったら、その上にやや太めの薪をのせていきます。



薪の追加

付属のポーカーを使い、薪をかきまぜたり位置を調整します。ポーカーはストーブ背部のクリップにかけて保管します。



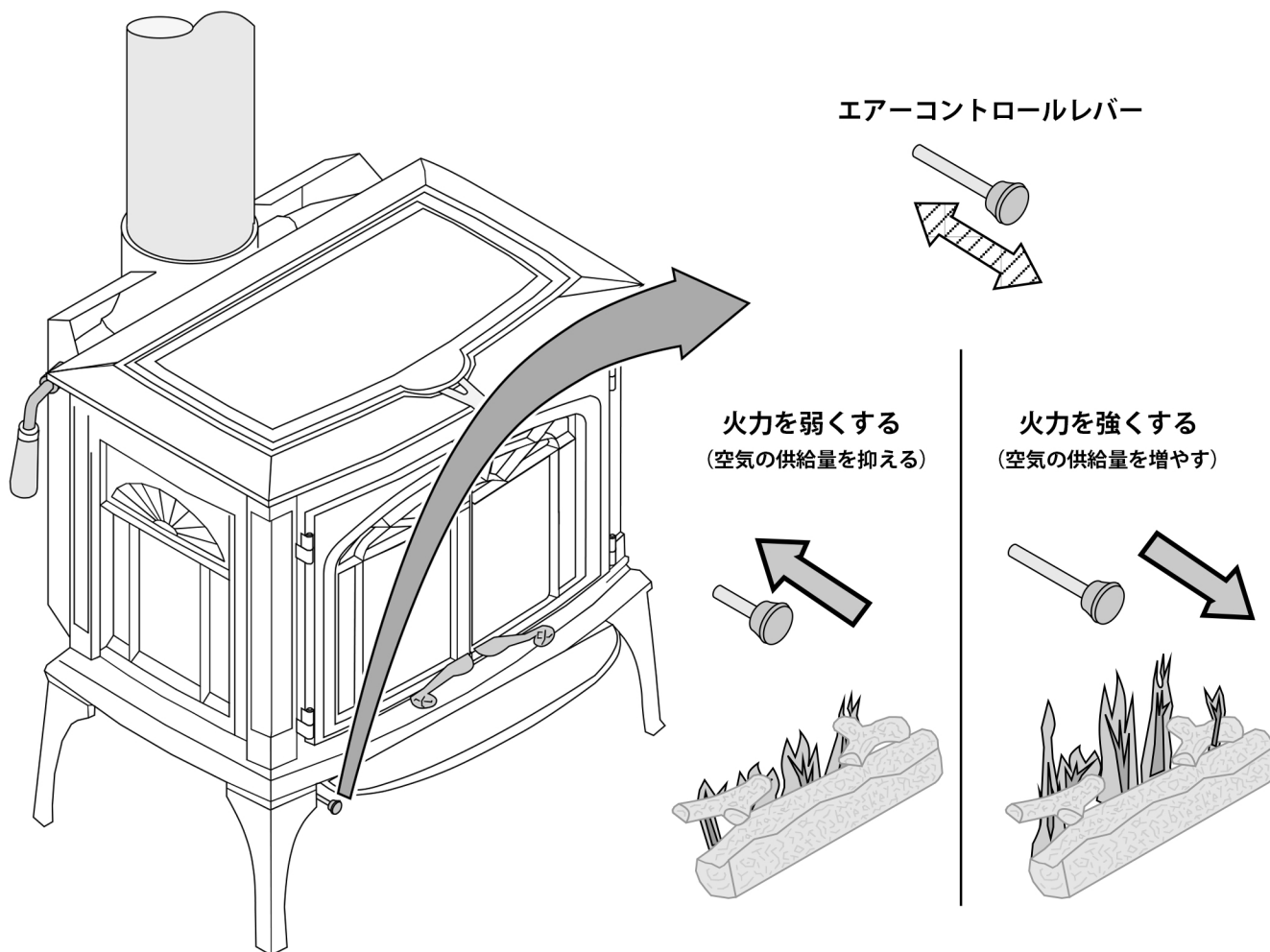
トップを閉める際はゆっくりと操作してください。トップを落とすよう閉めるとストーブにダメージを与えることがあります。



トップを開けている際は、衣類に火がつかないように十分お気を付けください。また、ストーブの近くに可燃物を近づけないようご注意ください。

火力の調整

火力の調整はエアークントロールレバーで行います。火力を強くする際はレバーを引き、弱くする際はレバーを押し込みます。



火力調整の目安

火力：強	レバーを目いっぱい引いた状態
強～中	レバーを最大より6 mmほど押し込んだ状態
中	レバーを押し込んだ位置から6 mmほど引く
弱	レバーを奥まで押し込んだ状態（夜間就寝時の燃焼におすすめ）



エアークントロールレバーを操作する際は、やけど防止のためグローブを使用してください。



レバーを調整しても、瞬時に火力が変わるものではありません。変化するまで数分の時間を要します。

灰の処理



灰を取り出す際は、しっかりした蓋つきの金属製容器（または不燃性容器）に入れ、不燃処理の
された床や地面に置いて保管してください。

廃棄する際は、お住まいの自治体の指示に従ってください。

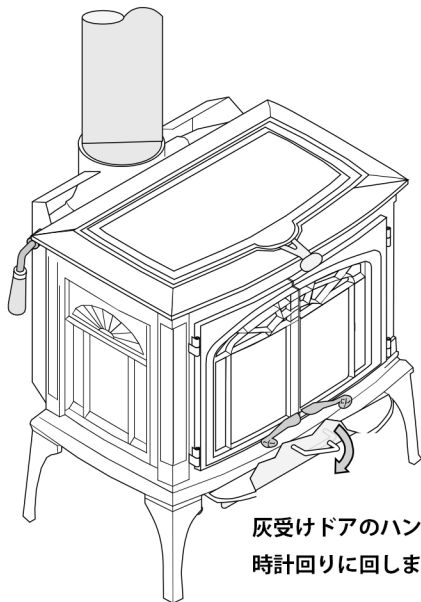


灰受け扉を開けたままストーブを焚かないでください。過燃焼の原因となります。

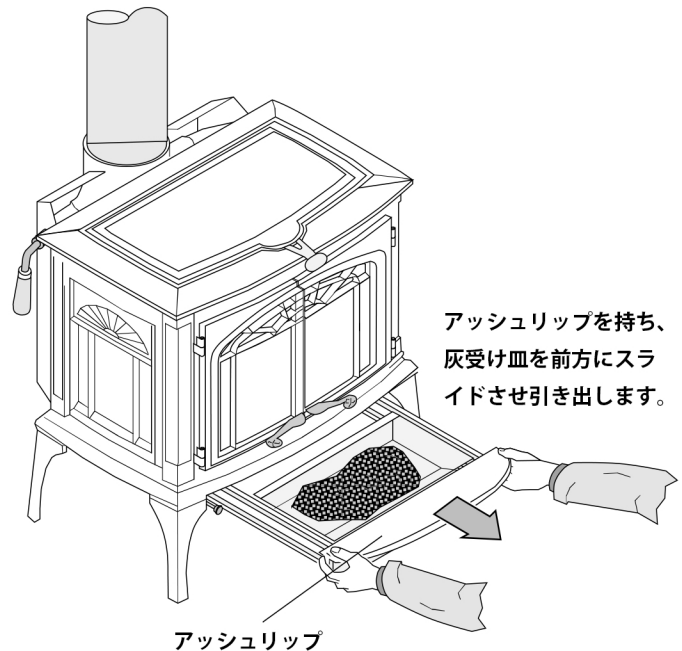


灰受け皿の出し入れはストーブが完全に冷えてから行ってください。

灰受け皿の取り出し方

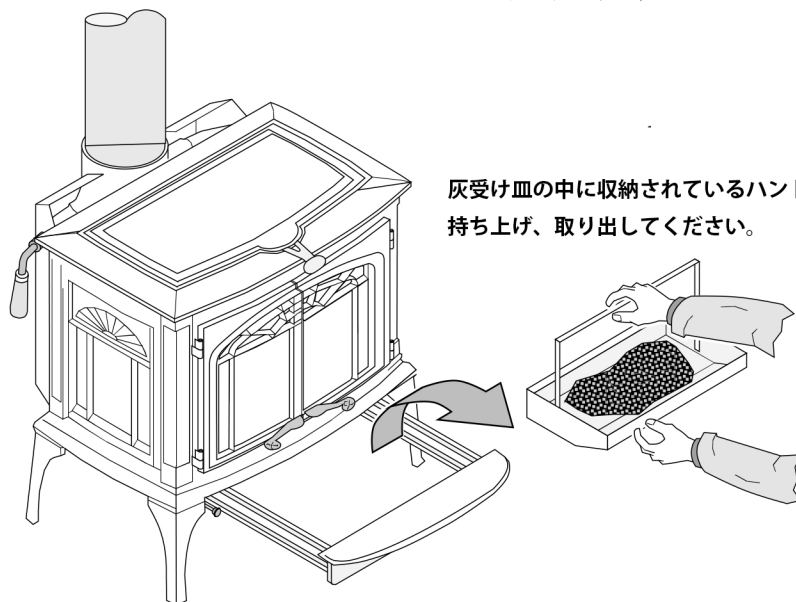


灰受けドアのハンドルを
時計回りに回します。



アッシュリップを持ち、
灰受け皿を前方にスラ
イドさせ引き出します。

アッシュリップ



灰受け皿の中に収納されているハンドルを
持ち上げ、取り出してください。

夜間就寝時の燃焼

このストーブは最大で連続12時間燃焼が可能な能力を備えています。

- 1 エアークントロールレバーをめいっぱい開け、まずはストーブの火力を強くします。（およそ15分ほど）
- 2 可能な限りの薪を投入します。※なるべく大きめの薪を入れて下さい。
- 3 ドアを閉めて更に15分ほど待ちます。その後、エアークントロールレバーを押し込んで火力を最小まで弱めます。

～就寝～

- 4 朝、火室に炭状態の火床ができているはずです。もし引き続き火を起こすのであれば、炭をかき回してその上に焚き付けや細めの薪を投入して下さい。

翌朝ストーブ内がタールなどで汚れている場合は、薪の水分が多いか、火力を弱めるのが早すぎた、ということになります。薪の種類や乾燥具合によって目安時間が異なる場合がありますので、火力調節の時間を見直してください。

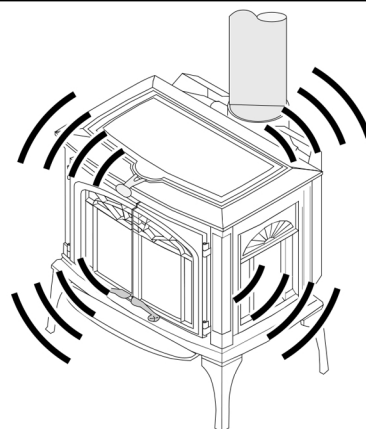


最大燃焼時間は、薪の種類や乾燥状態・煙突の組み方・ドラフト（上昇気流）などの要因により変化します。

音について

ストーブが熱くなる、あるいは冷える過程で鉄の伸縮が起こり、キーキーやカツカツといった音を発することがありますが、これは異常ではありません。

ストーブそのものの振動を抑えるため、レッグのボルトを調整して地面に接するようにしてください。



上手に焚くためのコツ

- ・エアークントロールレバーで火力調整に入る前に、まずはストーブをしっかり暖めることが重要です。
- ・早くストーブを暖めるためには、最初に焚き付け、さらに比較的小さな薪を投入します。
- ・長時間燃焼や就寝時の薪の投入は大きめの薪を投入します。
- ・長時間燃焼のためには、薪は寄せ合って積み上げるように置きます。
- ・長時間燃焼のためには、火室内の灰を掃除しすぎず、常時15mmほど積もらせておきます。
- ・長時間燃焼を実現させるには、大きな炎ではなく、より密度の濃い小さな炎を起こすことが重要です。
- ・最適な燃焼が実現できるよう、あなた自身がストーブの特徴をつかむように努力してください。
- ・環境や近隣の方々への配慮を忘れず、常に乾燥した薪を焚くよう心がけてください。

火入れのコツ

正しい焚き方を覚えることにより、効率よく家を暖めることができます。以下の手順を参考に、あなたに合った着火・長時間燃焼・オーバーナイト燃焼の方法を見つけてください。



① 6～8枚の新聞紙を丸め、火室の中央に置きます。



② 焚き付け用の細い木を新聞紙の上に重ねます。この時「井」形に組むと空気の通りがよくなり、着火が楽になります。



③ ダンパーとエアークontrolレバーをめいっぱい開けた状態で、新聞紙に火をつけドアを閉めます。最初の2～3分はドアを完全に閉めず、5mmほど開けておきます。



④ 焚き付けに火が入るまで5分程待ち、付属のポーカークで火のついた焚き付けを平らにならしめます。その上に中サイズの薪を重ねます。



⑤ 火室の2/3くらいが埋まるように中サイズの薪を入れます。いきなり大サイズを使わないのは、その方が長時間燃焼に大切な熾火(おきび)をより早く作ることができるからです。



⑥ ダンパー・エアークontrolレバーを開けたまま20分程焚き、ダンパーを閉めます。その後20分程で理想的な熾火を作ることができます。

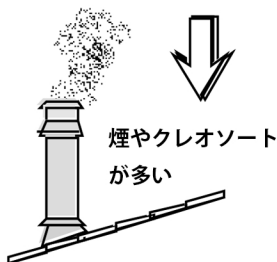
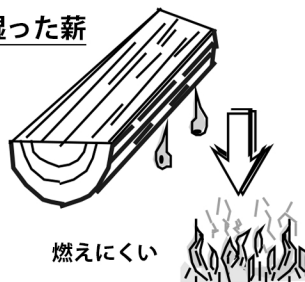
薪の選びかた



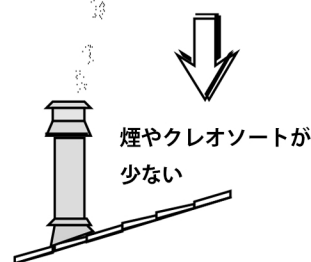
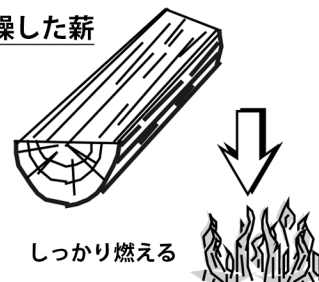
乾燥させた木材のみ使用してください。金属片・炭・プラスチック・石油などを使用するとストーブ本体や触媒を傷める原因となりますので、絶対に燃やさないでください。

- 乾燥した薪を使用してください。含水率が20%以内に収まっているのが理想です。
- しっかり乾燥した薪を中～強火力で焚くと、煙やクレオソートの発生が最低限で抑えられます。
- 薪は、割って地肌が露わになった状態で1年ほど乾燥させるのが理想です。
- 薪は含水率計で測定し、含水率の高いものは使用を避けてください。
- 含水率計で測定する際は割った薪の中心部に針を当てて測ってください。

湿った薪



乾燥した薪



なぜ乾燥した薪が重要なのか

湿った薪は内部に水分を貯蔵しているので、それらの水分が火室内の温度を下げ、いくら薪を投入しても温度が上がらない・暖かにならない、という現象を引き起こします。

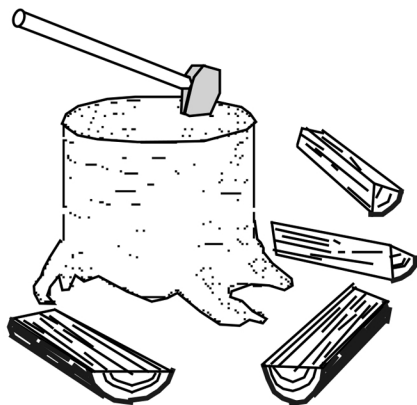
また、湿った薪は煙やクレオソート発生の大きな原因にもなり、煙突掃除が大変になります。

クレオソートとは

薪に含まれる水分やヤニが燃焼する過程で発生する黒褐色の液体です。冷えると固体化し、煙突内部や火室内に付着します。

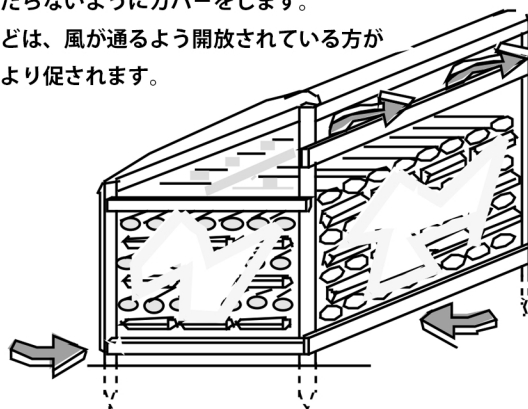
薪の保管

一定の長さに切った薪を、地肌が出るように割ります。



直接地面に接しないような棚に積み上げ、上部のみ直接雨が当たらないようにカバーをします。

正面や横などは、風が通るよう開放されている方が薪の乾燥がより促されます。



困ったときは

内容	解決方法
着火時、煙が部屋に戻ってくる。	ダンパーとエアーコントロールレバーをめいっぱい開けてください。煙突が冷えている場合は空気を引きません。火室内で丸めた新聞紙を燃やしてください。炎が継続しない場合はフロントドアを数ミリ開け、空気を呼び込んでください。
着火材に火がつかない。 (くすぶり続ける)	ダンパーとエアーコントロールレバーをめいっぱい開けてください。着火材の量を増やしてください。 炎がたちあがらない場合、フロントドアを数ミリ開け、空気を呼び込んでください。
薪再投入の際、煙が部屋に戻る。	ドアを開く前にダンパーを開けてください。ドアを完全に開く前に、数センチ隙間を開けて火室内の圧力を逃がしてからフロントドアを大きく開けてください。 技術的要因—煙突の長さが短い場合、上記の対策に関係なく、煙が戻ってくることがあります。この場合は販売店にご相談ください。 環境的要因—外気温度や気圧の影響で起こる場合もあります。
ストーブの温度が十分上がらない。	薪が湿っている可能性があります。 エアーコントロールレバーが完全に開いているか確認してください。 技術的要因—煙突の長さが足りない場合、十分なドラフト（上昇気流）が得られず、二次燃焼に最適な温度が維持できない場合があります。販売店にご相談ください。
燃焼時間が短い。	連続燃焼時間は薪の種類・状況・煙突内のドラフト、あるいは外気温度や気圧といった様々な要因によって左右され、スペック通りの結果が得られない場合があります。 フロントドア、灰受けドアのガスケットの接着が確実にされているか、確認してください。 火室内に15mmほど灰の堆積があることを確認してください。 灰の上に熾火（おきび）があり、その上で追加した薪にしっかり火がまわっている状態が長時間燃焼を実現するコツとなります。



適切な点検、メンテナンスは機器の寿命を延ばし、危険な状況を引き起こす要因を減らすことになるので、とても重要です。部品は正規のものをご使用ください。正規品以外のものを使用して不具合があった場合は保証の対象にならないばかりか、ストーブに損傷を与え、ケガや事故につながる可能性があります。



基本的には、薪ストーブは瞬時に何かが壊れ、危険な状態に陥るものではありませんが、常に定期的な点検を心掛けていただくことにより、より長くストーブをご使用できます。また、気象・気温などの外部的要因によりメンテナンスの頻度も変わります。

日頃のメンテナンス

灰の取り出し

灰受け皿がいっぱいになる前に、灰を捨ててください。灰が皿に入りきらないほどためてしまうと、灰受け皿を取り出す際にこぼれることがありますので注意してください。

- 1 ストーブが冷めてから灰を捨ててください。
- 2 灰受け皿を引出し、ショベル等ですくって金属製容器に移し替えます。容器はしっかり蓋をし、表面が不燃材でできた床や地面に置き、保管してください。



不適切な灰の処理は、思わぬケガや事故をにつながる可能性があります。



冷えていない状態の灰を段ボールなどの可燃性のものの上に置いたりそのまま捨てたりすると、火事など思わぬ事態を起こす可能性がありますので、絶対におやめください。

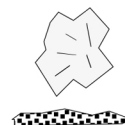
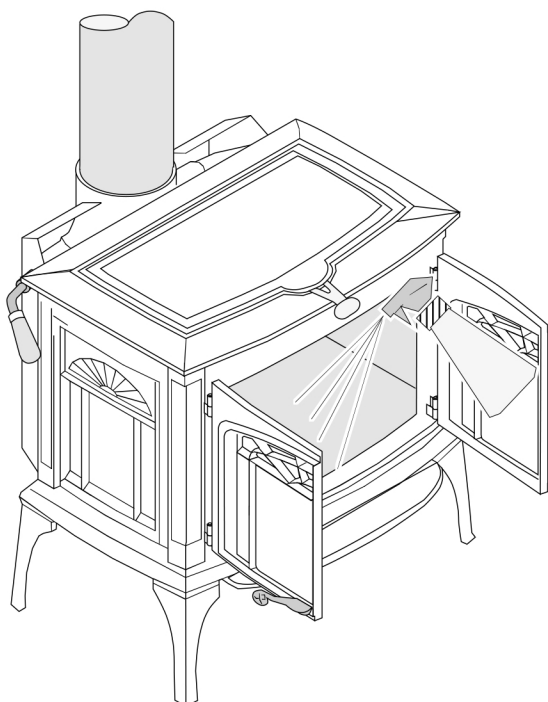


薪ストーブのメンテナンスは、灰やすが舞ったりこぼれる可能性がありますので、専用の掃除機等をご用意されることをおすすめします。

ガラスの清掃

エアーウォッシュ機能により、ガラスは比較的汚れにくくなっていますが、日々使用していく中で少しずつ汚れていきます。メンテナンスにはガラスクリーナーなどを使用しきれいにしてください。

なお、目の粗い研磨材はガラス表面を傷つけることがありますので使用しないでください。



煙道内火災について

煙道内に付着したススやタール・クレオソートなどに火がつくことを煙道内火災といいます。煙突が非常に高温になり、家屋にダメージを与える危険性があるので十分な注意が必要です。



煙道内火災の危険を防ぐため、より乾燥した薪を使うよう心掛けると共に、定期的な煙突内の点検が必要です。クレオソートの付着・堆積がみられれば、掃除し除去してください。



ご自身で掃除、除去が難しい場合はご購入の販売店にご相談ください。クレオソートは放っておくと煙道内火災の原因となり、家屋にダメージを与える可能性があります。

シーズン後のメンテナンス

タッチアップ塗装

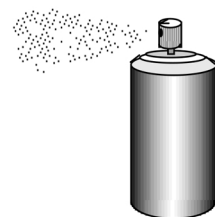


塗装の際は、ストーブが完全に冷めた状態であることを確認してください。

錆が発生していれば、サンドペーパー（紙やすり）などで落としてから塗装します。塗装の際は、表面が乾燥しているか確認してください。

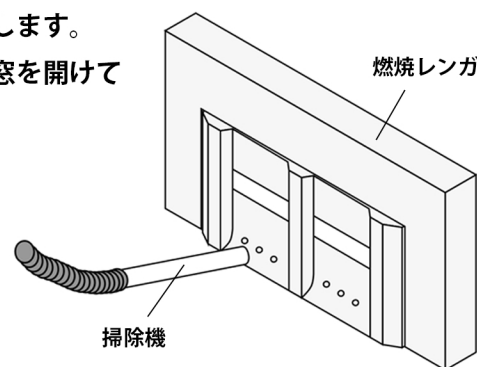
塗りは従来より濃くなりますが、一度火が入ることで同色に変化します。

また、再塗装部は熱が入る際に匂いを発することがありますので、しばらく窓を開けてください。



燃焼レンガの掃除

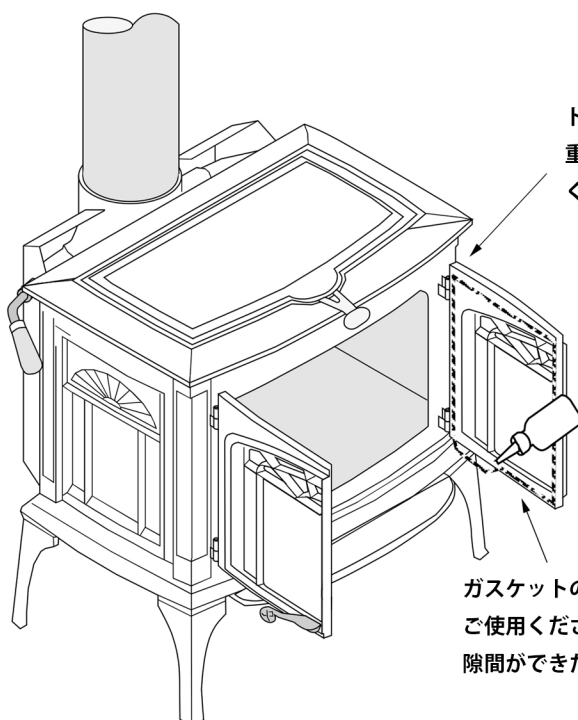
火室内にある燃焼レンガの穴に灰や煤が詰まると、燃焼効率が低下することがあります。掃除機で吸ってきれいにしてください。



ガスケットの交換



ドアのガスケットは外気の侵入を遮断し、エアーコントロールにより火力を調整するためのものです。しっかり火室の密閉度が保たれるよう、時々確認してください。



ドアは持ち上げて外すことができます。重いので落とさないよう十分注意してください。

ガスケットの接着にはストーブガスケット用セメントをご使用ください。ガスケットが固くなったりすり切れて隙間ができた場合は交換が必要です。

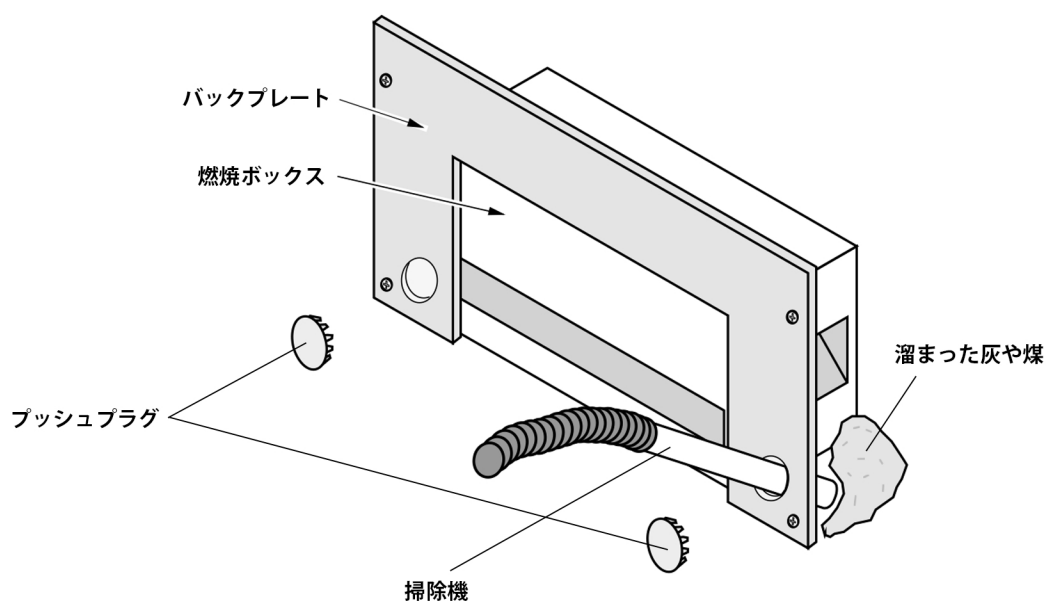
灰受け皿ラッチの調整

灰受け皿ラッチは、灰受け皿を開いてラッチを閉じる位置に回し、灰受け皿をしっかりともどす、という行為によって調整されます。エアーの入り込む隙間がないよう正しい位置にセットされるまで、これを繰り返して調整してください。

燃焼ボックス周辺の掃除

燃焼ボックスの左右に灰や煤が溜まることがあります。灰の堆積が進むと、ドラフト不良のほか燃焼を妨げる要因になりますので、1年に1回掃除を実行してください。

- ① 火室内にある左右のサイドレンガ・正面のコンバッションレンガ・バックプレートを外します。
- ② 燃焼ボックス正面にある左右2つの蓋（プッシュプラグ）を外します。
- ③ 掃除機の先を差し込み、奥にある灰や煤を吸い取ってください。



アンダイアンの取り外し

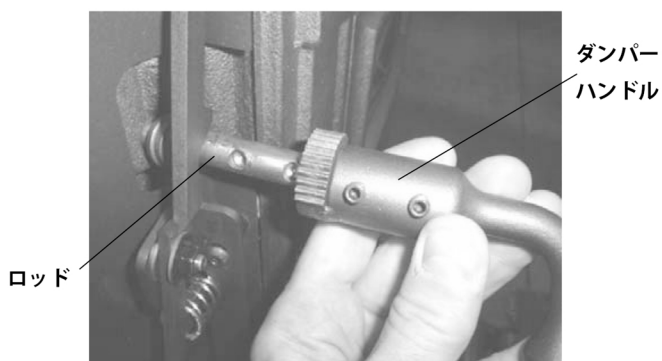
アンダイアンとは、薪がガラス面に倒れてこないようにするための部品です。所定の場所に7/16インチのネジで留まっていますので、ネジを外し上方に持ち上げて外してください。

ダンパーハンドルの取付け・取外し

※付属の1/8"六角レンチを使用します。

取外し イモネジを緩めるとダンパーハンドルが外れます。

取付け ハンドル部のイモネジを緩め、ロッドの穴の位置に合わせます。バイパスレバーを押し上げた状態で、ハンドルをロッドにすべりこませ、ネジで絞めてください。ロッドにワッシャーが取り付けられている場合は、ワッシャーを取り除かないようご注意ください。イモネジはロッドの穴に入り込む必要があります。正しい位置にはまるとネジはハンドル表面より奥に収まります。

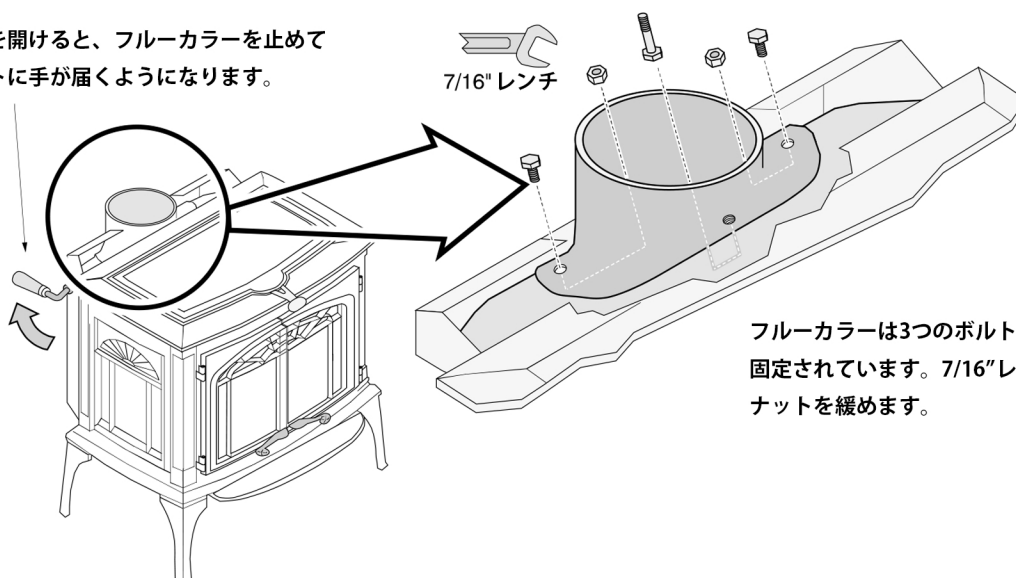


フルーカラーの取外し



フルーカラーと本体の間には気密性を高めるためにガスケットが使用されています。フルーカラーを再取付けする際は、ガスケットで密閉が確保されるよう正しい位置に取付けて下さい。

ダンパーを開けると、フルーカラーを止めているナットに手が届くようになります。



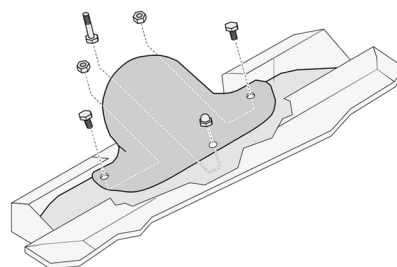
フルーカラーは3つのボルトネジと2つのナットで固定されています。7/16"レンチを使い、ボルト・ナットを緩めます。

煙突後ろ出し

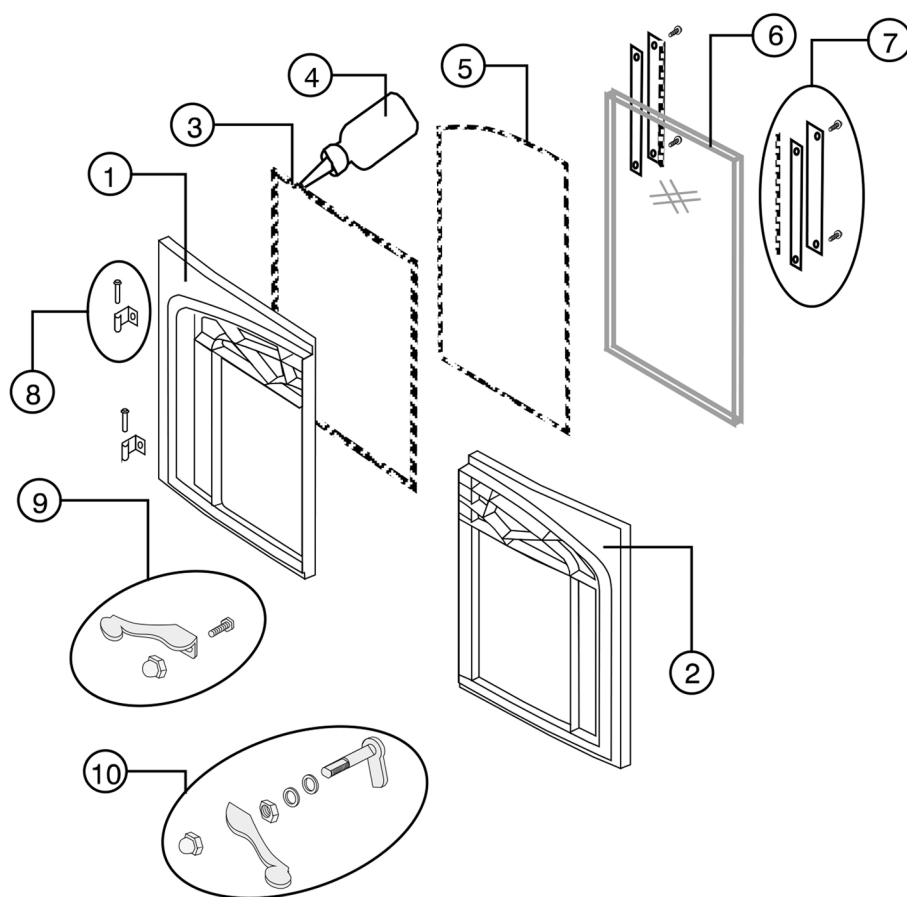
※耐火性炉壁で囲われたスペースに設置する場合、煙突を後ろ出しにする場合があります。

フルーカラーを取り外して向きを変えます。取り外したボルト・ナットを使って両端を止めます。

中央部については既存のボルトと、オーナーズパックに含まれる袋ナットを使用してください。



フロントドア



No	名称	個数	部品 No
1	レフトドア	1	
2	ライトドア	1	
3	ドアガスケット	1	
4	ガスケットセメント	1	
5	ガラスガスケット	1	

No	名称	個数	部品 No
6	ガラス	2	
7	ガラスクリップ (ネジ、ガスケット付き)	4	
8	ドアヒンジ (ピン付き)	4	
9	レフトドアハンドル (付属品)	1	
10	ライトドアハンドル (付属品)	1	



ガラスは、破損の恐れがありますのでガスケットが必要です。リテーナーやクリップで直接触れるような形で留めないようにしてください。またクリップは締めすぎないように注意してください。

ドアガスケットの交換

- ・ドアとガラス（及びガラスガスケット）の間にドアガスケットが必要です。ドアガスケットはガスケットセメント等で固定してください。
- ・新しいガスケットを取り付ける際は、古いガスケットセメントや接着剤を取り除いてください。
- ・ガスケットを部品に合わせ、余分な部分は切ってください。ガスケットは引き伸ばして使用しないでください。
- ・ガスケットが適切に接着するよう、何回かドアの開け閉めを繰り返してください。

トップローディングガスケットの交換

- ・トップローディングの下に、トップローディング用のガスケットをセメント等で取り付けます。

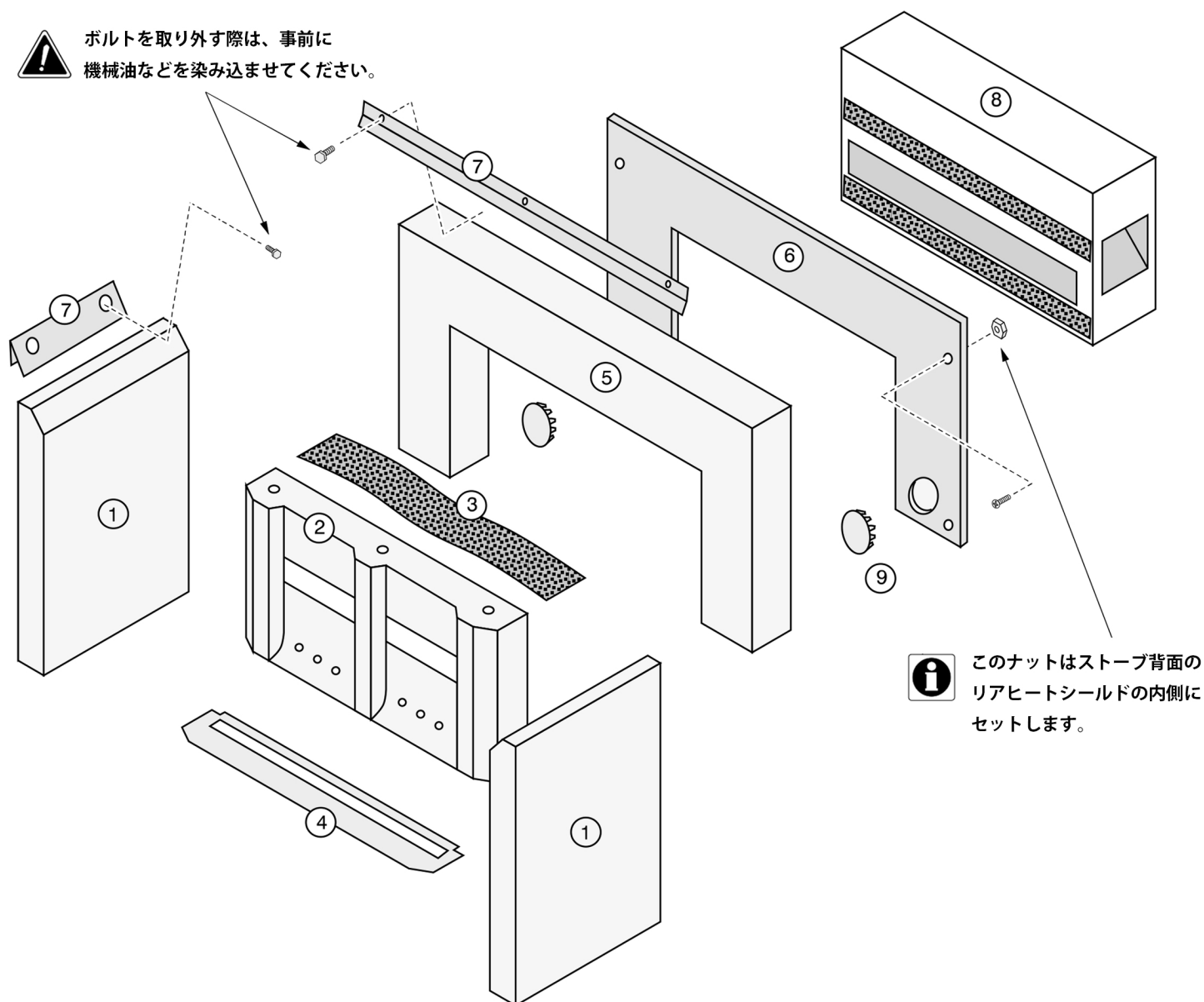
ドアハンドルの交換

- ・上記の図を参考に、部品をご確認ください。

燃焼室



ボルトを取り外す際は、事前に
機械油などを染み込ませてください。



このナットはストーブ背面の
リアヒートシールドの内側に
セットします。

No	名称	個数	部品No
1	サイドレンガ	2	250-00139
2	燃焼レンガ	1	250-00141
3	インテラムガスケット	1	250-00294
4	燃焼レンガガスケット	1	250-00145
5	バックレンガ	1	250-00140

No	名称	個数	部品No
6	バックレンガ (ナット、ボルト付き)	1	250-00704
7	ブリックリテイナー (ボルト付き)	1	250-00144
8	燃焼ボックス (ガスケット付き)	1	250-00247
9	プッシュプラグ	2	92-1340

レンガの取り外しと交換

レンガは衝撃には強くありません。取扱いには十分ご注意ください。

サイドレンガ、バックレンガ、燃焼レンガの順に取り外しができます。サイドレンガ・バックレンガは⑦のクリップで留まっています。

燃焼ボックスの取り外しと交換

レンガを全て取り出した後、バックプレートに留めている4つのネジを外しプレートを取り出すと、燃焼ボックスが前方にスライドして取り出せるようになります。非常に繊細な部品ですので、取扱いには十分ご注意ください。

保証の有効期間は1年間有効と2年間有効のものに分かれています。
内容をご確認の上、必要の際は販売店へお問い合わせください。

1年間の保証対象部品

- ・ ガラス

※ 熱による自然破損の場合。薪をぶつけるなど人為的要因による破損は保証の対象外となります。

2年間の保証対象部品

- ・ 鋳鉄プレートの割れ、ひび
- ・ 燃焼システム部材（レンガ、燃焼ボックス、それらに関わる部品）
- ・ エアークントロールシステム（スライドプレート、プレッシャープレート含む）
- ・ ダンパーシステム（ダンパープレート、ロッド、ダンパーレバー、ギアレバー）
- ・ 灰受け皿システム（灰受け皿、ローラー、グレート）
- ・ ドア、ドアハンドル、ラッチシステム（ドア、ガラスリテイナー、ハンドル、シャフト、カム、ネジ）

※ ガasketなど消耗品は対象外

保証条件、及び対象外の定義

1. 保証対象のストーブは、トラビスの販売店によって設置されたものに限りします。
2. 当説明書の設置・操作・メンテナンス条項に従ってお使い頂いていることが条件となります。
3. 当説明書にない使用方法によって起きた不具合、あるいは改造が加えられた場合は、保証の対象にはなりません。
4. 当保証を他人に移譲することはできません。トラビス販売店より直接購入頂いた方が対象となります。
5. 多少の塗装ムラや変色、鋳鉄パネルの歪みや組み合わせのズレ、或いはそれらに起因する異音は商品の特質上発生し得ることであり、不具合ではありません。保証の対象外となります。
6. 間違った使用による不具合は保証の対象外となります。間違った使用には過燃焼（温度の上げ過ぎ）、塩分を含んだ薪の使用・接着剤や塗料など化学物質を含んだ薪の使用・木材以外の燃料の使用を含みます。
7. 海岸部など著しく塩分を含んだ環境、或いは著しく湿度の高い環境で使用された場合、腐食の可能性があります。鋳鉄の耐腐食性の限界を超える環境下で起きた不具合は保証の対象外となります。
8. 水に濡れる、或いは浸かるといった状況下で起きた不具合は保証の対象外となります。
9. シリアルナンバーのプレートが剥がれていたり、ナンバーに不正に手が加えられた場合は保証の対象外となります。

TRAVIS INDUSTRIES 日本正規総輸入元

GREENHOOD(グリーンフード)

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-3 1F

TEL:03-6261-3884/FAX:03-6261-3885

WOODHOOD(ウッドフード)

〒031-0031 青森県八戸市大字番町1-1

TEL:0718-43-3061/FAX:0178-43-3037